

## ひと夏の渚

森野 水琴

海の家最終日、打ち上げの後、男と女が渚に佇んでいる。ふたりとも大学生で、夏休みに海をバイトで知り合った。初日からバイトが終わると、ふたりで渚を散歩した。潮風に吹かれ、潮騒を聞くとバイトの疲れも吹き飛ばす。ひと夏限定の恋も今宵で終わりを告げる。暗黙の了解。いつもなら帰る時刻になっても、一向に帰る気配が無い。いく夏を惜しむように潮風と潮騒。夜のとばりが降りて満天の星がふたりを見守る。

女の歓喜の音が ひと夏の渚に溶けていく